

## 入選

### 親切から広がる輪

福岡県 警固中学校 3年 松本 亜依

小さな親切は、する側もされた側をも温かい気持ちにさせる。そして、勇気をくれる。私自身、親切をされた側として、とてもうれしく、幸せな気持ちになった。

それは、毎年夏に開かれる、ピアノの発表会でのことだった。私が演奏するのは、ベートーベンの悲愴第一楽章。始まりは比較的ゆっくりで、ふだんミスをするような場面ではなかった。

しかし本番。極度に緊張していたわけでもなかったのに、最初の和音を弾いたあと、頭の中が真っ白になってしまった。自分でも驚いた。これは夢なのではないかとさえ思った。訪れる静寂。客席全体が自分を見ているのがわかったが、どうすることもできない。私はとっさの判断で、舞台袖へと引き返した。

引き返した先には、ピアノの先生や、演奏順が私よりもあとの生徒さんたちがいて、「大丈夫だよ」と私を励ましてくれた。だから少し、心を落ち着けることができた。

少しして、先生が「弾ける？」と尋ねてきた。私としても、弾かないまま発表会を終わりたいはなかったし、がんばりたかった。しかし、また失敗してしまうかもしれないという不安もあった。

そこで私は、楽譜を見て演奏したいと先生にお願いした。普通は見ないのだが、楽譜を見ながらなら弾けると思ったのだ。先生は、いいと言ってくれた。しかしそのとき、楽譜は手元になかった。客席に置いてある荷物といっしょにしていたのだ。

「じゃあ私が取りに行くね。」

と先生が行こうとしたとき、

「僕が行きますよ。」

と、その場にいた生徒さんの一人が名乗りをあげた。彼は、私を励ましてくれた人たちの中でも、親身になって声をかけてくれた人だった。そして彼と先生が楽譜を取ってきてくれた。私はその楽譜を見て、無事に演奏を終えることができたのだ。

舞台袖にいるとき、私は気が動転していてそこまで頭が回らなかったのだが、プログラム順に演奏は続いていたので、彼らが楽譜を取りに行ってくれているとき、彼の演奏順の直前だったのだ。心の準備も必要だろうに、彼は自分が弾く直前に他人のために動いたのだ。

楽譜を取りに行くという行動自体は、そう難しいことではない。しかし、あの状況で行動してくれた彼にはとても感嘆しているし、感謝している。発表会終了後、お礼を言うと、

「以前自分も同じように弾けなくなったことがあったから、気持ちがよくわかったんだ。こうした経験を通して、もっと成長できるよ。」

と言ってくれた。

小さな親切は、人の心を動かす。私も彼のように、人のために行動できる、やさしく思いやりのある人間になりたいと思った。そして「親切」からできる輪を広げていきたい。